

いきものみつけ

News.
Vol.16

発行：いきものみつけファーム滋賀推進協議会
電話：090-7966-2262 FAX：0748-68-0598

編集：事務局 竜王 住所：甲賀市土山町黒川
E-mail:ryuoh-mtm@maia.eonet.ne.jp 平成27年9月20日発



実りの秋、ザクザク

寺子屋・稲刈り体験

5月の田植の時には青々としていた稲の苗の葉が4カ月もたつとこんなに穂をつけて鮮やかな黄色に輝きまばゆいくらいです。
去る九月十三日に、いきものみつけ寺子屋としての稲刈りを致しました。今年の田んぼは、10年ほどの休耕田をいきものみつけ

寺子屋用に、地域のかっちゃん「オーナー」が小さく作ってくださったもので、肥料も入れていません。
そのために、穂になるか心配していたのですが、良かった、しっかり実(米)が詰まっています。水管理のかっちゃんに感謝です。
朝からパラパラと降った雨も

あがり、集まった親子十八組とボ

ンティアさん、スタッフ、地域のお百姓さんたちで、手での稲刈りが始まりました。
例年の様子から、難しいのが刈った稲を束ねてくること。今年は、ハサにかけるから、しっかりとくくれないと稲が落ちてしまします。
お百姓さんからは、藁のくくり方

葉が黄色くなるわけ

なぜ、稲が熟してくる葉が黄色くなるか？
モミが黄色くなるのは、モミが枯れてくるからなんだ。葉が黄色くなるのは、葉の中の葉緑素が死んでいき、葉の中の養分が米に流れて移っていき、葉が落ちていくからなんだ。だんだん、穂の重さが増えていって、穂が曲がって垂れていく。そろそろ稲刈りの時期になるんだ。
でも、熟しすぎて、「米の胴割れ」になってしまい、お米にツヤがなくなったりするんだ。80%くらい熟れたときに、刈り取りがいいんだ。もちろん、根はしっかりと生きているよ。

どうしてお米を干して、乾燥させるの？

刈り取ったばかりの米は水分が多すぎて、そのままにしておくと腐ってくる。刈り取りときの稲穂の水分は、23%~28%くらいが普通だが、18%位にならないとそのまま保存するわけはいかない。天気が良く、風とおしが良ければ、架け干しで1日に1%近く乾燥するんだ。

出典：いのちが集まる・いのちが育む「たんぼの学校」入学編 宇根豊 著 農文協出版

これが難しい。
小さな子どもの中には余るくらい1株をしっかりとザクザク刈り取る子ども、お百姓さんたちの指導の元くる大人、ハサにかける子ども分担であつた間に、ハサは稲束で満杯になりました。天気も回復して、秋空の元のハサかけの田舎風景は絵になります。



を指導を受けました。

鎌を持たせて子どもが一生懸命できた姿がびっくり



稲刈りを手でする手間を実感。昔の人は大変だったんだ



縁の下の力持ち

かつちゃん、ありがとう

今年から、私たちの田んぼと畑は黒川から猪鼻にファームを移動しました。それは、「私たちの田んぼ」を作りたいという望みをかなえてくださった裏方のかつちゃんこと、松岡勝男さんのおかげです。1反なった休耕田の一部を開墾、畦作り、水管理、芋畑の管理、ハサ作り、看板設置など。。。本業の野菜作り、運搬の合間にしていただきました。そして、かつちゃんは、われらの用心棒でもありまして。。。いっけん強面のかつちゃんは、とても小まめで優しい子ども好きな方です。皆さん感謝ですね。

なおこの投稿は本人のかつちゃんの了解をえていません。
「あほか、おまえ。。。そんなことしたらワシもうせえへんぞ」と怒られそうですから。(内緒)



「表からの続き」
が、その時、ハサが倒れてしまうという惨事が・・・
あく「涙」
ハサが倒れた
これを見ていたみんな「あくあ。」
としか言いようがなく、一気にハサからの稲束の撤去作業。そしてここで、力を発揮いただいたのが、少し古老のおじさんたち。家からしつかりした杭を持参いただきさすが、田舎の家には杭がある。
補修作業に1時間はかかるとの

ことであつたために、場所を移動して、午後から予定のいきもの観察になりました。



ヌマムツ、
タカハヤ、
サワガニ、
シマドジョウ、
オカハライモリ、
トノサマガエル、
カタツムリ、
イナゴ〔稲

秋のいきもの みつけ〔観察会〕



**コンバインに
みとれてしまう**
いつもの水田では、コンバインによる稲刈りが行われていました。
「機械でしたらあつというまなんだな。。。」「手でするってたいへんなことなんだ」
「コンバイン一台一五〇〇万円くらいするぞー」
コンバインで刈られる稲、同時に脱穀されて煙突のような筒からお米が出てきている様子に見とれながら観察会。

新米おむすび ありがとう

お昼は、地域のおばちゃんのおむすび会さんによる新米「おむすび」をいただきました。

みんなが「美味しかった」といってもならこんな食べない子どもたちもいくつも手にしています。ちなみに小さなおむすび1個は3200粒〜4000粒くらいの米です。

3、4本の青い苗がお米になつて私たちが食べられるのは、かつちゃんのお世話はもちろん、お日様、水、土、そして生きものたちがいてくれたからですね。
刈り取った稲とおにぎりの関係も勉強して「いのちをいただきます」
お腹がいっぱいになつたら、もう一仕事。

虫たちに取つたら、稲刈り軍団やコンバインは、自分たちの住処への襲来かもしれませんね。



修繕されたハサかけた。責任感の強い子どもたちは、大人の手も借りずにあつという間にすべての稲束をハサにかけてくれました。

そして、稲束から落つこちた穂が田んぼに落ちています。
「もたない」「はい、ミレーの」「落ち穂拾い」「じゃないけど」「寺子屋の落ち穂拾い」・お疲れ様。

